

一 漢文の基礎

はしがき

(1) 「送りがない」と「送りがないのつけ方」……五

(イ) 送りがないとは……五

漢文の伝来——直読——音・訓

——送りがない

(ロ) 送りがないのつけ方……八

(2) 「返り点」と「返り点のつけ方」……一四

(イ) 返り点とは……一四

返り点——訓点——訓読——句読

点等——白文——書下し文

(ロ) 返って読む場合……一七

フ・ニ・トのくる場合——再読文

字のある場合——特殊な文字のある場合

(ハ) 返り点のつけ方……三〇

二 漢文の形式

レ点ばかりの場合——一、二ばかりの場合——レ点と一、二の組み合わせられる場合——レ点、一二、上下、甲乙丙の組み合わせられる場合。

(1) 受身の形……三五

(2) 使役の形……三七

(3) 否定の形……三九

(4) 比較の形……四〇

(5) 疑問の形……四一

(6) 反語の形……四二

(7) 仮定の形……四三

(8) 抑揚の形……四四

(9) 推量の形……四五

——付録 詩の学び方……五九

はしがき

中国を知るには、ぜひとも漢文を学ぶ必要がある。もちろん中国にも文語と口語があり、民国初年の口語（白話）運動以後はすべてのものが口語で書かれるようになり、これには中国語の知識が必要である。しかし中国本来の文化を理解するためには、やはり、漢文を学ぶ必要がある。それは漢文は文語であるが故に、時代的変遷が少なく、したがって漢文を学べば、おのずから昔から今日に至るまでの文献を読む知識を得ることになるからである。

一方、漢文は古い昔から我が国に伝来し、日本文化の根源を為したが、漢文はまたこの点からぜひとも学ぶ必要がある。殊に国文の古典を解するにはこれを解する必要がある、その知識の直ちに国文を解する力となるのは、漢文が国語科の中に入れられているのからも知られることである。

さて本書は初めて漢文を学ぶ人のための入門書として編したものである。簡明なのはその最もむねとすると、特に短い期間に誰にも容易に基礎的な知識の得られるようにと工夫した。難しい文字や、難しい語句を避けたのも、また解説にごく普通のものを取って、特殊なものや、めったに出て来ないものを避けたのも全くそうしたわけからである。

本書は便宜上、「漢文の基礎」と「漢文の形式」との二篇に大別し、さらに「詩の学び方」を付録としてつけたが、特に「例題」や「練習問題」には、それによってなるべく多くの知識の得られるように工夫した。

2 「返り点」と「返り点のつけ方」

(1) 返り点とは

漢文には国文と語序の同じ場合と、同じでない場合があり、注意しなければならない。すなわち

- | | | |
|---|------------|-------------------------------------|
| 1 | 鳥啼く。 | 鳥啼。 |
| 2 | 富士山は 名山なり。 | 富士山 ^ハ 名山 ^{ナリ} 。 |
| 3 | 山高し。 | 山 ^シ 高。 |

といった場合は、漢文も国文も言葉の順序が同じであるが

- | | |
|------|----------|
| (国文) | 我 文を 作る。 |
| (漢文) | 我 作文。 |

- | | |
|------|-----------|
| (国文) | 我 名山に 登る。 |
| (漢文) | 我 登山。 |

となると、その順序が違っている。

しかも前者の場合は、漢字をそのまま順序に読み、適当に送りがないければよいが、後者になるとそうは行かず、さらに読む漢字の順序を示す必要がある。例えば「文を作る」「名山に登る」は単に

- | |
|--------------------|
| 作 ^ル 文。 |
| 登 ^ル 名山。 |

としただけでは不十分で、さらに

- | |
|--------------------|
| 作 ^ル 文。 |
| 登 ^ル 名山。 |

というように読む漢字の順序を示す必要がある。この「^レ」とか、「^ハ」「^ニ」を返り点という。